



「電源がない…」
「避難所には居られない…」
あの日の課題を
乗り越えるために



医療的ケア児者と 地域のつながりづくり 事業報告会



■医ケアの輪主催／親の会ティーミーティングから

令和元年台風第19号災害では、医療的ケアが必要なお子さんがいる家族が被災し、停電した被災地で避難できる場所、充電できる場所を探して車で「さまよった…」という事例がありました。報告会では、「命の線」を地域とつなぐこの3年間の成果をふまえ、誰も取り残さない防災・福祉を実現するために今後の取り組みについて提案します。行政、医療・福祉関係者、そして地域防災関係者の皆さま。あの日の課題を「希望のつながり」に変えるために、一緒に考えませんか。

日時

令和8年 **1月30日(金)** 13:30~16:00

会場

キッセイ文化ホール
(松本市水汲 69-2) 国際会議室及びオンライン

対象者

200人

定員

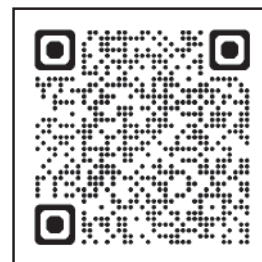
行政・社協・企業関係者
災害時に支援が必要な家庭及び支援者

申込

令和8年1月23日(金)まで

参加費無料

参加申込はこちらから



休眠預金「医療的ケア児者と地域のつながりづくり事業」

- 主催／社会福祉法人長野県社会福祉協議会
- 協力／長野県医療的ケア児等支援センター
- 助成団体／公益財団法人長野県みらい基金、社会福祉法人長野県共同募金会



■事業報告会スケジュール

時間	項目	内容
13:30	開会	オリエンテーション 当事者の声の動画（長野市、松本市の保護者）
13:45	事業報告	<p>「避難支援ガイド」・「紙芝居」など</p> <ul style="list-style-type: none"> ●長野県社会福祉協議会 ●長野県医療的ケア児等支援センター副センター長／亀井智泉氏  <p>電源の大切さについて啓発活動</p>  <p>地域共生を伝える紙芝居を作成。今後、図書館等での活動を促進</p>
14:25	ディスカッション	<p>パネルディスカッション 「あの日の課題を、「希望のつながり」に変えるために」 【パネリスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●松本市こども発達支援課／課長 山崎ひとみ氏 松本市の避難訓練の取り組みについて ●長野県医療的ケア児等支援センター副センター長／亀井智泉氏 ●長野県社会福祉協議会／岡宮真理 <p>【コーディネータ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●NPO 法人さくらネット／代表理事 石井布紀子氏 <p>【ゲスト・コメンテーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●熊本県医療的ケア児支援センター／小篠史郎氏 ●熊本県医療的ケア児支援コーディネーター／宅島恵子氏  <p>個別避難計画に基づく避難訓練（松本市）</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>熊本大学医学科卒業、医学博士・小児科専門小児神経専門医。熊本大学病院小児在宅医療センター特任講師として、医療的ケア児と家族の支援に従事。特に災害時の医療的ケア児支援体制や個別避難計画づくりを推進し、地域・行政・教育機関と連携したインクルーシブな「命を守る防災」の実践に取り組んでいる。</p> </div>  <p>小篠史郎 先生(おざさしろう)</p>
16:00	閉会	

キッセイ文化ホール (長野県松本文化会館)

(松本市水汲 69-2)

